



かみっこ



秦野市立上小学校長・幼稚園長 府川 伸 Tel 88-0274 FAX 87-3809

創立 150 周年記念相撲大会特集号



5月26日(金)に、創立150周年記念相撲大会が行われました。昨年は雨のため、体育館で行いましたが、今年は天候に恵まれて、校庭の土俵で実施しました。感染症が5類に移行したことに伴い、保護者や地域の方々にも参観していただきました。



今年は、学年ごとに全児童が『塵手水』を披露しました。『塵手水』とは、元々は手に何も隠し持っていないことを互いに確認し合ったことがその起源とされています。現在は、手を清める相撲の作法として取組前に行われることになったそうです。少し恥ずかしがりながらも堂々とする姿に、低学年の児童のかわいらしさと高学年の児童の力強さを感じられました。

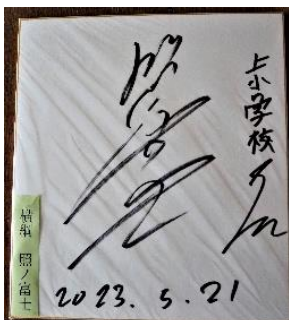


上小学校の相撲大会の歴史を紐解いてみると、昭和57年(1982)秋に土俵が完成し、翌昭和58年(1983)7月に第1回相撲大会が開かれました。その後、令和2年度に新型コロナウイルス蔓延防止のため中止された以外は毎年行われ、40年に渡り相撲大会が続けられてきました。このように、上小学校の伝統行事として続けられてきたのも、地域の方々の浄財で櫓が造られたことにより、雨風から土俵が守られたおかげです。今年度は150周年事業の一つとして、その櫓の改修が行われる予定です。

今年度も迫力ある取組が行われ、熱戦が繰り広げられました。4年生男子決勝では、3回取り直しになりましたが勝負がつかず、規定により予選会の結果で『悠真の山』の優勝となりました。1年生は、初めての相撲大会ながら粘り強い取組が行われました。



6年生は、行司・アナウンス、5年生は審判など、準備から当日まで立派に運営をすることができました。



また、出雲大社の宮司が上小学校の相撲大会のことを伊勢ヶ浜親方に伝えてくれたところ、伊勢ヶ浜部屋の5人の力士からサインが届きました。その中には、5月場所で優勝した『横綱照ノ富士』のサインもありました。

なお、相撲大会の様子は、当日夜に神奈川テレビの報道番組で放映されるとともに、翌日の神奈川新聞と、6月2日付けのタウンニュースにも記事が掲載されました。

